

番組審議会

第663回

2022年9月12日

■ 審議会の構成

委員総数	10名		
委員長	音	好	宏
副委員長	中	江	有里
委員	江澤	佐知子	尾 縣 貢
	萱野	稔人	喜田村 洋 一
	佐藤	智恵	長 嶋 有
	水無田	気流	目加田 説 子

TBSテレビ	佐々木	社 長
	龍 宝	取締役
	井 田	取締役
	瀬戸口	編成局長
	米 田	報道局長
	金 富	報道局プロデューサー
	山 岡	報道局プロデューサー
	藤 野	報道局ディレクター
	中 田	編成考査局長
	秋 山	編成考査局審査部担当部長
	村 田	編成考査局視聴者サービス部長
	天 野	番組審議会事務局長

■ 議事概要

(1) 諮問事項

TBS放送基準の一部変更について

(2) 審議事項

- 1) 「戦争と嘘=フェイク」8月14日(日)放送について
- 2) その他

(3) 報告事項

2022年度下半期の編成方針

(4) 事務局報告事項

- 1) 視聴者からの声について
- 2) 次回審議会の議題及び日程について

【諮問事項】

□民放連（日本民間放送連盟）放送基準が3年余りの検討を経て改正され、2023年4月より施行される。今回の改正は、人権意識の一層の高まりや価値観の多様化に対応することなどを目的とした大幅な見直しである。民放連放送基準はTBS放送基準として準用されるため、TBSテレビは放送法第6条第3項に基づき、TBS放送基準の一部変更を番組審議会に諮問した。番組審議会は、次回第664回番組審議会で答申する。

【委員の主な意見】（「戦争と嘘＝フェイク」について）

□3名の海外駐在記者の取材は、詳細・正確で説得力があった。足で稼いで集めた情報は、一般の報道・ニュースに比べ、より真実が伝わるものだ。

□“フェイク”は嘘をつく側の問題だけではなく、受け止める側にも大きな責任があるというメッセージを、一視聴者として受け止めた。

□旧日本軍空母の乗組員100歳や101歳、シベリア抑留者95歳、広島原爆被爆者93歳と、今でなければ撮影できない方々ばかりへの取材に心を打たれた。

□こうしたメディアの戦争への眼差しが、日本が戦争しない国であり続けることに対して与えた貢献は大きい。今後も期待したい。

□情報が氾濫する現代と、77年前との対比は、プロパガンダの座標軸が少し違うのではないかという違和感もあった。

□戦争を批判するやり方、常に戦争=悪、だから駄目だという議論を続けることがどこまで有効なのか。戦争批判を逆に陳腐化させないだろうか。どうしたら戦争を止められるのか、そこに力点を置く番組づくりがあっても良い。

□スタジオでの女性出演者のアップや、VTRでの女子高校生の涙など、若い女性が番組の中における情緒的な部分を担っているようにも思えた。

□一連のウクライナ報道で、TBS報道局が記者を派遣してきっちり取材したものを提示することを大事にしたのは、番組としても非常に良かった。

□現場取材を重視し、フェイクニュースという1テーマで太平洋戦争とウクライナ紛争を描いた。これまでのTBSの戦争特番でも、群を抜いて秀逸だった。

TBSでは番組審議会委員のご意見を真摯に受け止め、今後の番組内容の向上に活かしていく所存です。(TBSテレビ番組審議会事務局)